

私たちの神へのささげもの

2025年8月24日

ヘブル人への手紙 13章15～16節
コロサイ人への手紙 3章16節

序：旧約時代の幕屋や神殿でささげられていたいけにえ＝動物の血 (by 大祭司)
新約時代の礼拝でささげられるいけにえ＝神の子羊・キリストによる贖い

罪人のために、門の外で苦しみいのちをささげてくださったイエスを通して神を礼拝
救いにあずかった者たちも、主の辱めを身に負い、みもとに近づくのではないか
救い主に感謝し、ほめたたえるために
私たちのゴールは天の御国：来るべき都
そこにおいてささげられる完全な礼拝にむかう今のこの地上での礼拝

ささげものは何か？ (1)賛美 (2)善い行い・あわれみの業

I. 賛美のいけにえ 賛美：御名をたたえる（告白する）唇の果実

(1)コロサイ 3・16b
詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に歌いなさい
詩：詩篇

賛美：聖書にある詩篇以外の型を整えて残された賛美の歌
例：マリアの賛歌 ザカリヤの賛歌 御使いたちの合唱
シメオンの賛歌

霊の歌：詩篇や賛美とは区別
御霊に啓発され、信仰の感動の表現として生まれた即興歌

(2)イエスを通して
イエスは神と人との仲介者、神と人の間に立つ真の大祭司
救い主によって救われた者が神に受け入れられるのは救い主イエスによって

(3)感謝に溢れて

(4)絶えず
どんな時も（喜怒哀楽いかなる状況にあっても
間断なく（声に出す、心の中で、寝ても起きてても）

(5)神にささげる
他の人を喜ばせること、自己満足が目的ではない
神にささげた結果、人も恵まれ、慰められ、満ち足りるのである

II. 賛美の変遷

(1)旧約時代
神のご性質や御業への賛美・感謝と神への絶対的信頼
賛美は神の命令
ダビデは賛美の専門職（作曲者、歌う人、楽器を奏でる人、指揮をする人等）
を任命、自らも竖琴を弾き、多くの詩篇を作った
神は賛美に対し、雲の形で栄光を現された

(2)新約時代

①イエスの時代～初代教会
ユダヤ人会堂での礼拝の慣習を受け継ぎ詩篇が歌われた
賛美の歌や霊の歌も神に向かって歌われた

②中世
器楽はなくなった？
斉唱
聖職者制度、ミサ（ローマカトリック教会）⇒ 特権化
ラテン語による聖歌隊

③宗教改革

賛美：神の恵みに対する信仰者の応答、感謝のささげもの
マルティン・ルター
聖職者の特権 ⇒ 会衆賛美
作詞・作曲、器楽 一般民衆に理解できるよう

④その後のプロテスタント教会音楽

欧州の敬虔主義、欧米の信仰覚醒運動の中で、讃美歌や福音聖歌が数多く
生まれる
それぞれの教派、信条、神学の違いから強調点や様式に差はある
声楽（斉唱、合唱）、器楽
いずれにしても、感謝と喜びにあふれて、心からの賛美を神にささげる

Ⅲ. 善行のいけにえ

(1)善

相手にとって益となること、必要なこと
相手の身になって
親切に、優しく、恩に着せず
傾聴、手助け、人がしたまらない奉仕、
金銭や物資の提供 ⇒ 分かち合う

①善が何であるかは聖書（神のことば）と御霊によって知る

②善を行うには、御霊に導かれ、助けられて、神の愛と力をいただく必要がある

③ひとりでなす善行もあれば、他の人達と協力してするものもある

④栄光は神にお返しする（自分のものではない）⇒ 神が労い報いてくださる

(2)分かち合う

①物資を分け合う

食料、品物、金銭 （例えば災害時）

②力、能力を分かち合う

自分に神が与えてくださっている賜物を他の人の益のために使う

③時間を分かち合う

ひとりでやるのは大変でも大勢でやれば、あっという間
他の人の欠けた時間を自分の時間で補う

④重荷を分かち合う

重荷には、その人だけにしか担えないものと負い合えるものがある
担い合うとき
悲しみ、苦しみは半分に、喜びは倍になる

Ⅳ. 結び

キリスト信者にも祭壇がある
動物の血ではなく、イエス・キリストを携えて神に近づく
神が喜んで受け入れてくださる私たちのいけにえは、
①感謝と喜びをもって心から神をほめたたえる賛美
②善を行うこと
③分かち合うこと

しかも、積極的に、進んで、喜んで、確信をもって、力強くまっとうすることを
神は喜んでくださる
イエス・キリストがご自分のすべてをささげたように 私たちの最上のささげもの
も私たち自身のすべてをささげること（究極的）